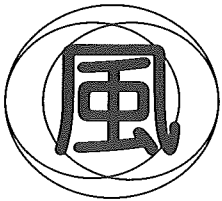


関西いのちの電話

こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)0120-738-556
毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00



「聴くことは、痛みを分かち合うこと」

関西いのちの電話 理事長 イ 李 チョン 清 イル 一

近頃、社会福祉に関して「100周年記念」ということばをよく見かけるようになりました。その一つに、「賀川豊彦献身100周年記念事業」があります。それは、賀川豊彦(1888～1960)が21歳の時(1909年)、神戸の貧しい人々の街に住み込み、活動を開始したことに始まります。賀川は大正・昭和期のキリスト教社会運動家であり、作家でもあります。現在、書店に積まれている賀川の多くの著書の中で『死線を越えて』は、彼の代表作の一つであります。私も高校生時代に読み、胸が熱くなったことを記憶しています。賀川豊彦献身100年を迎えた今年、神戸はもちろんのこと各地で記念事業が催され、賀川豊彦ブームが起こっています。

今、何故、賀川豊彦なのか。朝日新聞は、「賀川がスラム街で活動を続けていた頃と、格差社会といわれる現代の不満が重なる」(09年8月29日)ためであると分析しています。常に社会的に弱者の側に立ち、分かち合いの精神を生きた賀川豊彦のような存在の必要性を、みんなどこかで感じている

からだと思います。

『釜ヶ崎と福音』(岩波書店)の著者で、20年間にわたって釜ヶ崎に住み、活動しておられる本田哲郎神父と最近お会いしてお話する機会がありました。本田さんは、関西いのちの電話の初代理事長を務められたチネカさんと同じカトリック教会のフランシスコ修道会に所属されている方です。本田さんは著書の中で、「痛みを知る貧しく小さくされた人」との出会いを通して、本当の自分自身へと解放された経験を語っています。そして、「大切なのは、どのくらい自分がその人の痛み・苦しみ・さびしさ・悔しさ・怒りにひびき合えるか、共感・共有できるか、それにかかっている」と繰り返し述べられています。その言葉の中に、いのちの電話に関わっている私たちにも共通するスピリッツ、「聴くことは痛みを分かち合う」ことを感じます。このことは、一人ひとりが尊ばれ、共生できる社会へのビジョンにつながるものであります。

第27回いのちの電話相談員全国研修会

和歌山大会報告

大会テーマ：“つれもていこら”（いっしょにいこうよ）

開催日：2009年11月22日～24日 会場：和歌山県民文化ホール

今大会の参加者は、全国から340人、そして和歌山スタッフ70人合わせて410人でした。

初日は和歌山在住のイーデス・ハンソン氏の「違いがあってこそ…」の講演で始まり、懇親会で終了しました。

二日目はテーマ：「～について考える」の7つの課題「電話相談における難問」「死について」「今日的な事象」「障害について」「相談員資質向上のためのトレーニング」「組織運営システム」「和歌山について」について20の分科会に分かれて研修がもたれました。

その中で2つの分科会の内容を報告いたします。

「自殺の危機介入について」分科会

午前中は安田先生の講義を受ける。特にはじめの「自殺と私」では聴き手もまた自殺を考えたことがある、それは他人事ではない…との気持ちで聴けるかが重要である。そして、危機介入（自殺予防）はカールロジャーズの傾聴（セラピストが心から、死が選択されてもいいと思う時こそ、生が選択されるのである）の説明があり、ひたすらに聴くことがまずは危機介入であり、聴くことに及んでは聴き手の死生観が聴く姿勢に現れるので、聴き手は自らの死生観を持つことが大切であること。そして自死の事例として円谷幸吉（1940～1968）の遺書を通じて、なぜ彼は自殺したのかを語り合った。午後からはケース2例の紹介があり、死にたいと訴えるクライアントの気持ちに電話の聴き手の応答を中心に学習した。（I.N）

「頻回者への対応」分科会

分科会は大坂樟蔭女子大学教授、鳥山平三氏による司会進行で9時～17時まで開催された。頻回者は精神科に入院、通院している人が多く病院にも友人にも、更に家族にも話を聞いてもらえない状況のなかで電話を掛けてきている。相談の基本的な姿勢として、聞かない訳には行かないが、少し短めにしていく事が必要では無いかとの解説から始まる。あるセンターでは、聞くことを継続する場合と短めにしていく場合に分けてブースに貼り付けているとの発表があった。頻回者の情報共有を行っているセンターは少なからず在った。また、相談員には色々な法律的知識は必要では無いかとの報告もあった。特に障害者自立支援法を伝えただけで、うつ病治療費負担が3割から1割になって喜んでいるとの報告もあった。頻回者について、NTTに依頼して調査したところ100回のコールは5人の発信であった例もある。又内容が性的なものも多くあり、対応方法が話された。基本的にはお断りで電話を切るが巧妙に作為していることもある。その後、相談員のケアについても話し合が持たれ、同僚、OB、事務所の人、担当交代者等と話すことができるようにしておられるとのことだった。関西いのちの電話の相談員は2009年は307人で、他のセンターは100人以下から200人が通常であった。全国でも有数のセンターであることを自覚して、研鑽せねばとの思いを強く感じた一日だった。（T.M）

関西いのちの電話 第28回公開講座

いのちを見つめて — 心の危機と再生の道 —

講師 柳田 邦男氏

日時：2010年2月27日（土）14:00～（開場13:30）

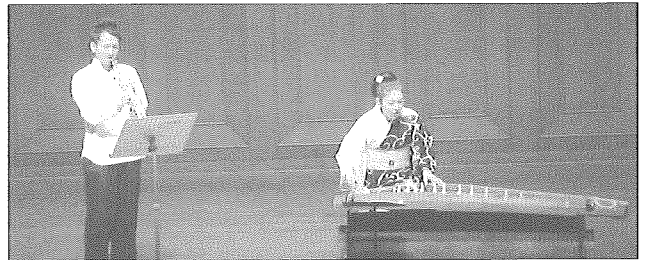
場所：大阪YMCA会館 大ホール

参加協力費：1,000円（当日1,200円）

✧ お申込み・お問い合わせ ✧
関西いのちの電話事務局
TEL 06-6308-6868

第14回チャリティーコンサート〈NEW KOTO 箏の新しい世界〉 片岡 リサ 箏コンサート

今年のチャリティーコンサートは、8月7日(金)例年どおり、いずみホールで日下部吉彦さんのプロデュースにより開催された。演奏者は、オーケストラとの共演、洋楽器とのアンサンブルなど、箏の新しい世界を切り開いて現在もっとも注目されている片岡リサさん。珍しいサクソフォン(西本淳氏)と箏の二重奏の宮城道雄作曲「春の海」で幕を開けた。次いで伝統的な「大段の調」や「荒城の月」等の箏独奏。サクソフォンとの二重奏で阿久悠の世界メドレー「勝手にしやがれ」「北の宿から」など5曲。そして「千の風になって」を箏とソプラノの弾き歌い、最後はピヴァルディのバイオリン協奏曲が箏独奏と17人の箏の伴奏によって華やかにホール一杯に響きわたった。アンコールは「アメイジンググレース」箏とソプラノがしんみりとこだましてコンサートを終えた。片岡さんの純白の



着物姿が舞台に美しく映え、オペラにも出演経験のある透明なソプラノが印象的であった。700名近い入場者で一階席はほぼ満席の大盛況であった。皆さまのご協力に感謝いたします。

来年のコンサートは7月31日(土)午後いずみホールで小林道夫氏(ピアノ・チェンバロ奏者)をお招きして開催の予定です。お楽しみに。(事業企画委員会)

創立36周年記念バザー開催される



創立36周年バザーは11月7日(土)、澄み渡る秋晴れの下、沢山の方々をお迎えして盛大に開催されました。

屋外ではキッズコーナーが特設され、子ども達はワンクんと触れ合いながら、楽しいひとときを過ごしました。模擬店も多様に並べられ、美味しそうな匂いが皆さんの歓談を盛り上げました。皆さんの笑

顔に囲まれた実りある1日でした。

今年は永年実行委員長として陣頭指揮を取られていた高宮氏をご逝去され、高宮氏から引き継いだバザーの経験の乏しい委員が中心となって、準備をすすめてまいりました。そのため、沢山の方々にお声かけをしてご協力をお願いし、セクションごとの責任体制、情報の共有化をすすめ、沢山の力が集大成されたバザーが出来上がりました。不慣れな中でこのような成功を収めることができ、今更ながらに人と人の繋がりを実感致しました。収益の方は、景気低迷の中にも拘らず、昨年同様の120万円を上げることができました。バザーにご協力下さいました皆様方に心から感謝を申し上げます。下記の企業から援助を頂きました。厚くお礼申し上げます。

(バザー実行委員会)

協賛企業(50音順)

江碕グリコ(株)様 (財)近江兄弟社様 (株)ガイドウ繊維様 東リ(株)様
(有)なかの様 ヘンケルジャパン(株)様 ミートショップ丸清様

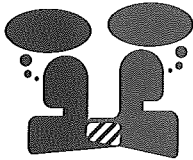
歳末
募金

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として 相談活動をおこなっています

皆さまのご支援がいのちをつなげ、電話をつなぎます。
活動資金が必要です。いのちの電話の活動を支えてください。

□座名義：社会福祉法人 関西いのちの電話 理事長 李 清一
□座番号：郵便局 00990-3-68480
：三井住友銀行 十三支店(普)0998829
※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。





傾聴と共感(3)

「自分の気持ちに正直に」

30代後半の女性からの電話。沈黙の多いケースで、かけ手はぼつぼつとしかはなさないで、時間が過ぎていきます。

聞き手は、「どうされたのですか?」と声をかけたり、断片的に話す内容を繋いで確認したりしながら、相手のことを理解しようとしています。

そして、かけ手の女性は大家族の中で育ったこともあり、十分に両親からかまってもらえていなかった背景があるんじゃないかという仮説を立てながら聴いていたのです。

その一方で、聞き手は、断片的にしか話してくれない相手に対して、イライラしたり、何かしようしようと思ってしまっている自分には気づいているのです。でも言葉にならない、そんな自分に歯がゆい思いをしているのです。

なんとか聞き出せた相手の背景を想像すると、その状況の重さというか、その人が置かれている

状況の深刻さがぐっと胸にきて、自分としては十分な声かけができないという思いで一杯になっている。

こんなかけ手に対して、聞き手の気持ちに正直に応答するにはどうすればいいのでしょうか。

方法提示するのではなく、「あなたは助けてほしい。そういうことじゃないかなあ〜」という言葉をかけ手の鏡になって返してあげることも一つの選択肢。もう一つ、こんな応答はどうでしょうか。

「今聴かせてもらっているお話は、あなたにとってものごく深刻な課題なのでしょうね。何か言葉をかけたいのですが、私には言葉が出てきません。私はそんな私自身にも歯がゆい思いをしています。」

聞き手が今感じ取っているありのままの自分の気持ちを正直に表現してみることも、電話を介して共有している「今、ここ」で相手に寄り添う姿勢ではないか、これも共感と言ってよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

(長尾文雄)

第46期電話相談員養成講座のご案内

あなたも私たちと一緒に活動しませんか?

- ☆募集期間 2010年2月1日(日)～3月26日(金)
- ☆養成期間 2010年4月～2012年3月(2年間)
- ☆開催日 1年目の講座は毎木曜日午後6:30～8:30
2年目はインターンとして実習とスーパービジョン

*募集要項は事務局までご請求ください。

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

OB会開かれる

11月7日(土)博愛社の会館3階の会議室にて相談員のOB会がもたれました。当日は13人の方が集われ和やかな懇談の一時をすごしました。また、当日の賑やかなバザー会場へも繰り出し楽しみました。

次回OB会にも奮ってご参加ください。(T.M)

電話相談受信状況

受信月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,043件	1,874件	1,808件	1,887件
相談員数(延)	494人	479人	462人	469人

編集後記

寒冷温暖を繰り返し、インフルエンザを流行らせつつ冬の音が近づいております。みなさまにはお変わりございませんか。相談事業と法人運営とが充実するよう皆さん頑張っていることを、お伝えできる12月号であればと願っております。

公園のいちょう落葉と三輪車 (E.I)

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人 李 清一 編集 広報委員会

ホームページ <http://www.kaind.net/>